

■施工される方へのお願い

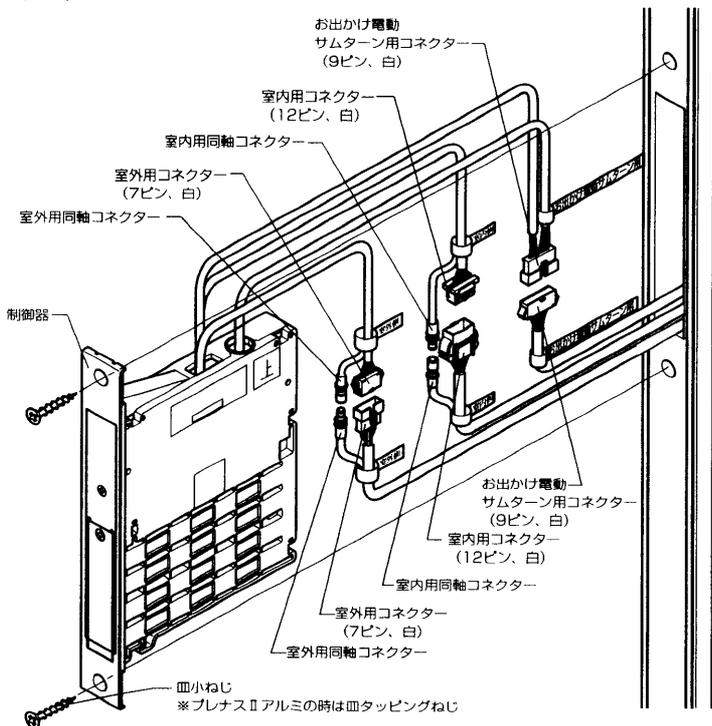
●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

お願い…特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと機器の損傷・故障等につながる場合に用います。

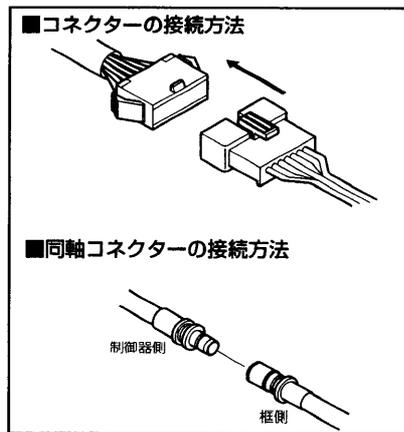
■取付け手順

1 制御器の取付け

- ①ドアから引き出したコネクター5本を、それぞれ制御器のコネクター5本と合わせしっかり差し込みます。
- ②制御器の上下方向の確認は、制御器側面に張られているシールの「上」マークで確認してください。
- ③ハーネスを扉内に入れながら、制御器を皿小ねじ（スピードナットを使用している扉の場合は皿タッピングねじ）で取り付けます。（上シールを参考にして取付け方向を間違わないでください。）

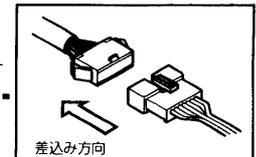
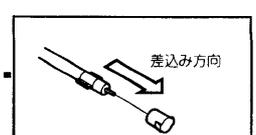
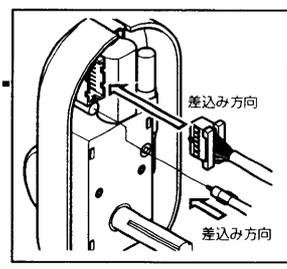
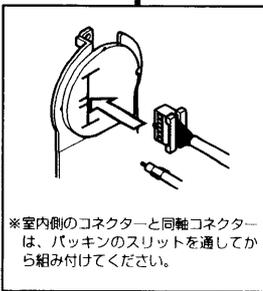
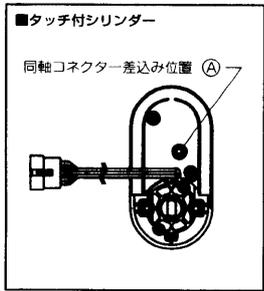
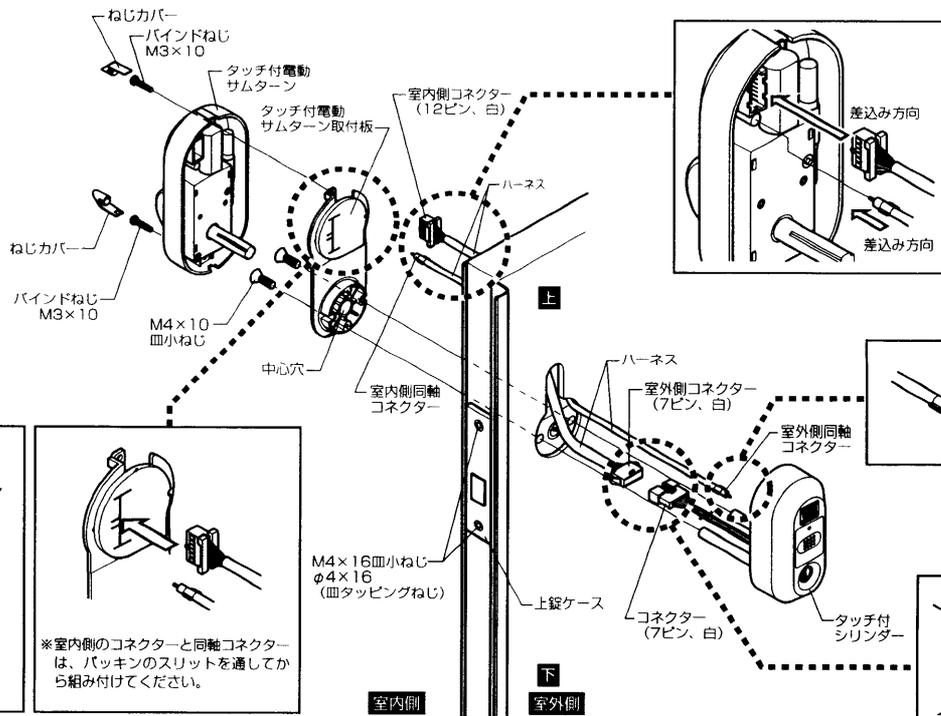


※同軸コネクターを組んだ後、テープにて扉内に固定してください。



2 タッチ付シリンダー・タッチ付電動サムターンの取付け

- ①ドアから8cm以上ハーネスを引き出してください。
- ②皿小ねじで上錠ケースを取り付けます。（ボルトNX、レグナム、アンビイTX扉の場合はガード錠、その他の扉は、鎌付デッドボルトを取り付けてください。）
タッチ付シリンダー側のコネクターと同軸コネクターを接続します。
- ③タッチ付シリンダーに、ドアから引き出した「室外側」とタグの付いたコネクター2本をしっかりと差し込み、トステムマークを上に向けます。（ハーネスがねじれないようにしてください。）
- ④タッチ付シリンダーのシャフト（2箇所）を、上錠ケースの丸穴に合わせてハーネスを扉内に入れながら差し込みます。（ハーネスが噛み込まないようにしてください。）
- ⑤タッチ付電動サムターン取付板の中心の穴を上錠ケースの中心に合わせて、皿小ねじでタッチ付シリンダーに取り付けます。この時ドアから引き出した「室内側」とタグの付いたハーネスをあらかじめ取付板のバックスリット穴に通しておきます。
- ⑥タッチ付電動サムターンにハーネスのコネクター2本をしっかりと差し込み、サムターンツマミを縦に向けタッチ付電動サムターン取付板にはめ込み、バインドねじ（2箇所）で取り付けます。
⑦バインドねじの上にねじカバー（2箇所）を取り付けます。

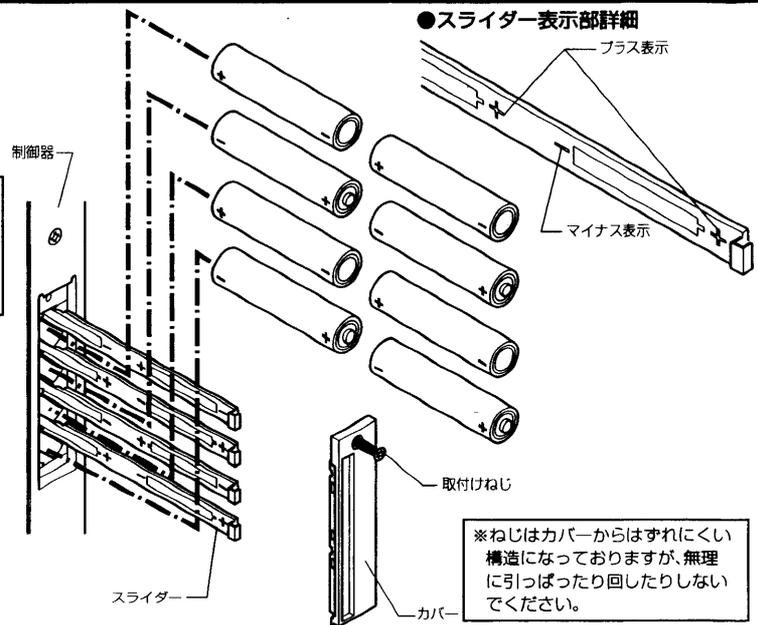


室内側 室外側

■制御器の電池の入れ方

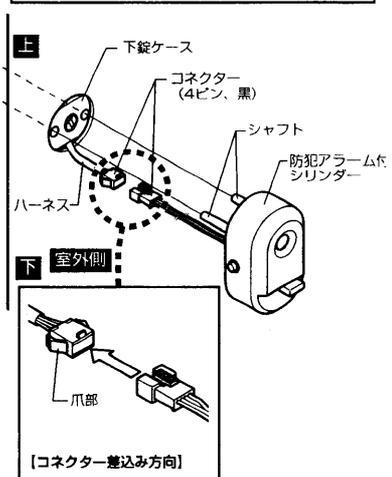
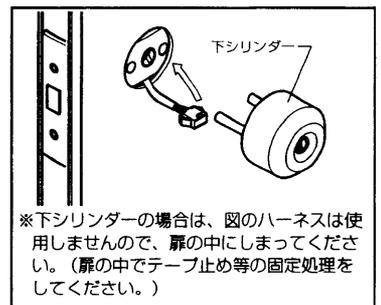
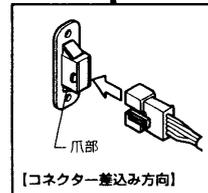
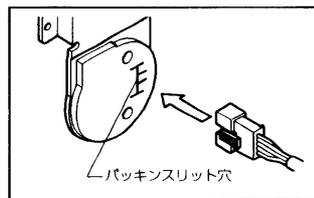
- ①制御器中央のねじをゆるめ、カバーを取り外してください。
 - ②スライダーを引き出し、古い電池を外してください。
 - ③スライダーの表示に従い、+を合わせて、電池をスライダーとともに挿入してください。
 - ④カバーの下部をひっかけ、ねじ止めしてください。
- 施錠、解錠時にヒツ音4回が鳴った場合は、電池交換時期です。電池を交換してください。

※スライダーを引き出す際に電池を押し込んだり、スライダーを強く奥まで押し込むと、接触不良の原因となることがありますのでご注意ください。
 ※制御器の電池寿命は約1年です。取り替え時期が来たら新しい電池と交換をお願いします。
 制御器用電池：富士電機化学製単三アルカリ電池、および相当品
 ※電池の新旧混使用は液漏れの原因となりますのでおやめください。



■3下シリンダー（防犯アラーム付シリンダー）、お出かけ電動サムターンの取付け

- ①ドアから8cm以上ハーネスを引き出してください。
- ②皿小ねじで下錠ケースを取り付けます。（ボルトNX、レグナム、アンビィTX扉の場合は鎌付デッドボルト、その他の扉は、サブ箱錠を取り付けてください。）
- ③防犯アラーム付シリンダーのコネクター（黒）と、扉側から引き出したコネクター（黒）を接続します。（簡易タッチキーセット防犯仕様のみ）
- ④下シリンダー（防犯アラーム付シリンダー）のシャフト（2箇所）を、下錠ケースの丸穴に合わせて差し込みます。（防犯アラーム付シリンダーはこの時、ハーネスを扉内に噛み込まないように入れながら差し込んでください。）
- ⑤電動サムターン取付板の中心の穴を下錠ケースの中心に合わせ、皿小ねじで下シリンダー（防犯アラーム付シリンダー）に取り付けます。この時ドアから引き出したハーネスを、電動サムターン取付板のバックスリット穴にあらかじめ通しておきます。
- ⑥お出かけ電動サムターンにハーネスのコネクターを差し込み、サムターンツマミを縦に向け電動サムターン取付板にはめ込み、バンドねじで取り付けます。
- ⑦バンドねじの上にねじカバー（2箇所）を取り付けます。



■タッチキーを使つての操作方法

- 付属のタッチキー2個は登録済です。
- 追加のタッチキーを購入していただいた場合は、登録が必要です。登録がお済みでない場合は、必ず登録操作を行ってください。追加キーの登録方法は、取扱説明書P.12を参照してください。

1. 帰宅時の施錠／解錠

【解錠】

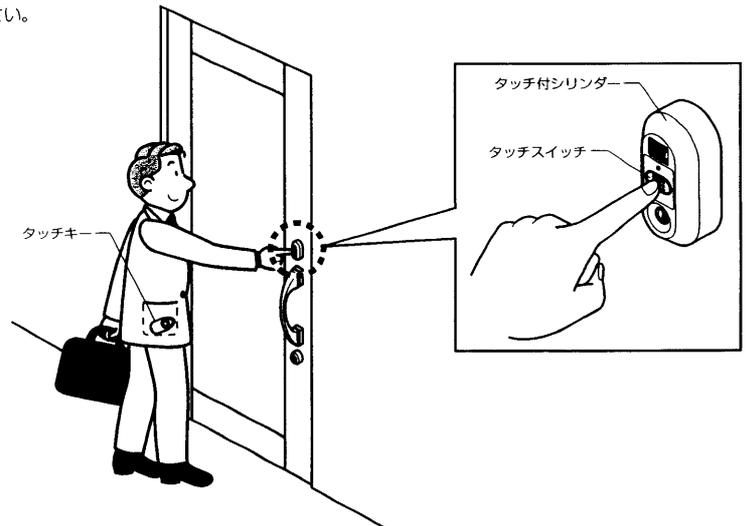
- タッチキーを携帯して、タッチ付シリンダーのタッチスイッチを押すと解錠します。
- ※ランプの表示については、取扱説明書を参照してください。

●アドバイス ●
 ●タッチキーの作動範囲は、タッチ付シリンダーから周囲約40～80cm以内です。ただし、タッチ付シリンダーにタッチキーを近づけすぎると作動しないことがあります。

【施錠】

- 室内に入り扉を閉めると、1秒後に自動施錠します。
- ※ランプの表示については、取扱説明書を参照してください。

●アドバイス ●
 ●タッチスイッチにより解錠し、そのまま扉を開けなかった場合は再度のタッチスイッチの操作により施錠することができます。また、操作をしなくても、30秒後に自動施錠します。



2. 外出時の施錠／解錠

【解錠】

- タッチキーを携帯してタッチ付電動サムターンをタッチスイッチを押すと解錠します。
- ※ランプの表示については、取扱説明書を参照してください。

◆アドバイス◆

- タッチキー作動範囲は、タッチ付電動サムターンから周囲約40～80cm以内です。ただし、タッチ付電動サムターンにタッチキーを近づけすぎると作動しないことがあります。

【施錠】

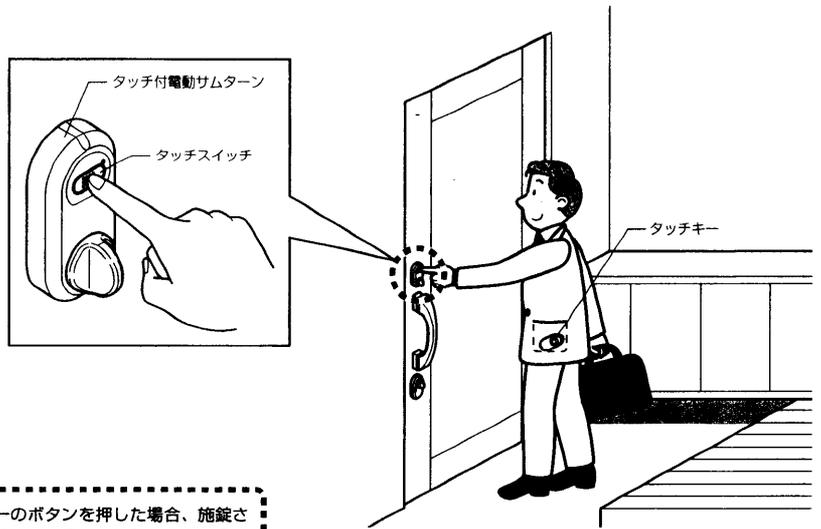
- 室外に出て扉を開けると、1秒後に自動施錠します。
- ※ランプの表示については、取扱説明書を参照してください。

◆アドバイス◆

- タッチスイッチにより解錠し、そのまま扉を開けなかった場合は再度タッチスイッチの操作をすることにより施錠することができます。

◆お願い◆

- タッチキーを室内側の玄関ドア近くに置き忘れた状態でも、タッチ付シリンダーのボタンを押した場合、施錠されてしまうことがあります。必ずタッチキーを携帯していることを確認してから、タッチキー付シリンダーのボタンを押してください。
- 扉の上または下の錠どちらか一方が施錠されている場合には、扉が施錠状態であるとタッチキーシステムが認識をします。このため、施錠操作を行っても解錠を行ってしまいますので、解錠された後、もう一度施錠操作を行ってください。



■タッチキー機能以外の操作方法

1. リモコン機能での操作方法

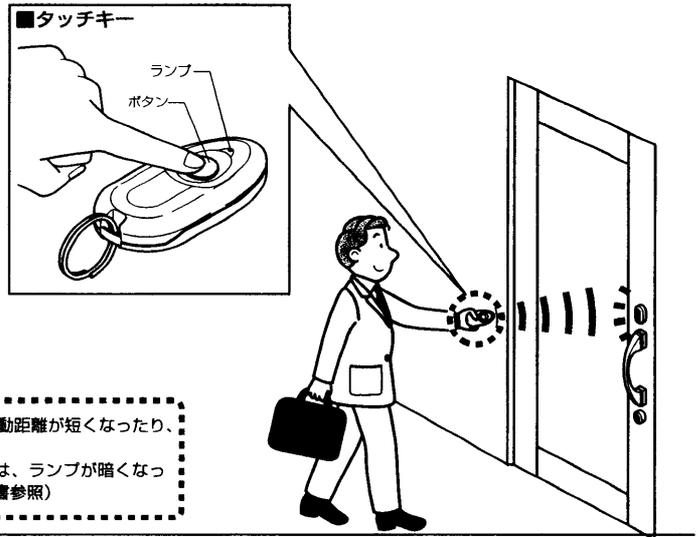
- 玄関ドアから離れた場所（約3.0m以内）からタッチキーのボタン操作により、施錠／解錠することができます。
- 操作方法は、施錠時にタッチキーのボタンを押すと解錠し、解錠時にタッチキーのボタンを押すと施錠します。

◆アドバイス◆

- タッチキーのボタンを押して解錠した後にドアの開閉を行わなかった場合、約30秒後に自動的に施錠されます。
- タッチキーのボタン操作でドアの施錠／解錠を行う場合、作動範囲はドアから周囲約3.0mです。
- 扉の上または下の錠どちらか一方が施錠されているとき、リモコン操作を行うと解錠します。もう一度リモコンボタンを押せば施錠されます。（上下の錠とも施錠されていないと、施錠状態にはなりません）

◆お願い◆

- 近くにテレビ塔や発電所・放送局等の強い電波を発生する設備があるなど、周囲の状況により作動距離が短くなったり、タッチキー機能が使えない場合があります。
- タッチキーのボタンを押しても作動しない場合や著しく作動可能距離が短くなった場合、または、ランプが暗くなって点灯しなくなった場合は電池の消耗が考えられます。電池を交換してください。（取扱説明書参照）



■その他の施錠・解錠操作

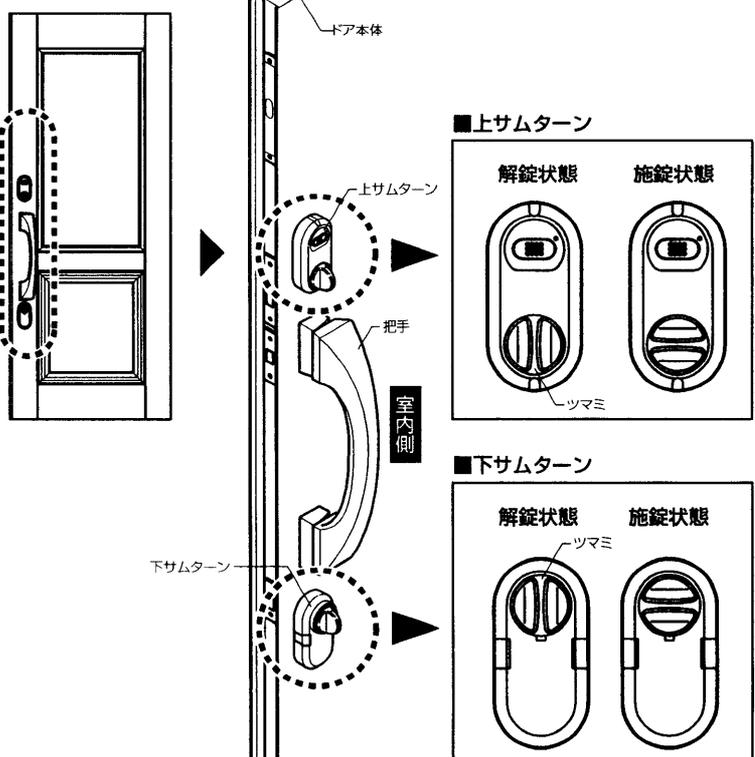
■室内側からのサムターンによる施錠／解錠

- 施錠／解錠を室内側から手動で行う場合は、サムターンツマミを回すように操作してください。

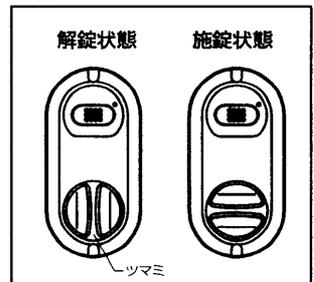
◆アドバイス◆

- ドアを自動施錠したくない場合は、サムターンにより解錠してください。サムターンにより解錠した場合は、自動施錠は行いません。

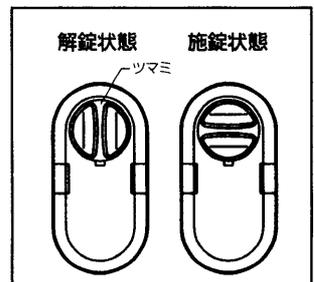
■ドア本体（室内側）



■上サムターン



■下サムターン



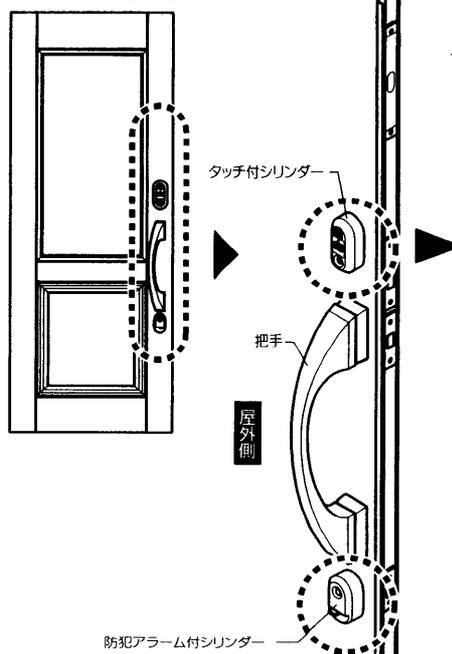
■屋外側からのカギ（●）による施錠／解錠

●屋外側から上・下シリンダーにカギ（●）を差し込んで、施錠／解錠を行います。

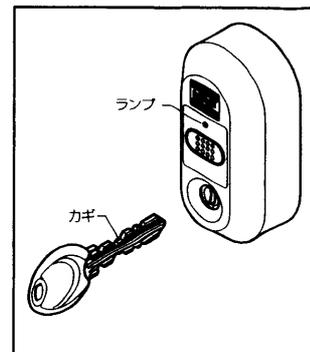
●アドバイス

●ドアを連続して解錠状態にしたい場合は、カギ（●）により解錠してください。
カギ（●）により解錠した場合は、自動施錠は行いません。

■ドア本体(屋外側)



■タッチ付シリンダー

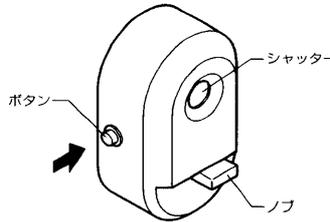


■防犯アラーム付シリンダーの使用法

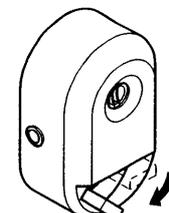
●防犯アラーム付シリンダーは、通常シャッターで鍵穴を覆っています。これは、普段から鍵穴を見せないことで鍵穴への直接的なイタズラや、不正解錠等を防止するためです。またシャッターが開けられてから一定時間以内に解錠されない場合にはブザーが鳴り出すため、不正な解錠（ピッキング等）を防止することができます。

防犯アラーム付シリンダーの操作方法

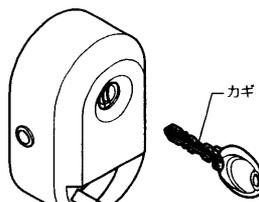
①防犯アラーム付シリンダーの側面にあるボタンを押します。



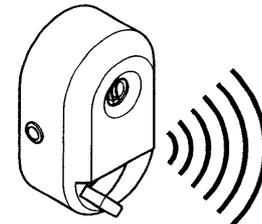
②ボタンを押しながら防犯アラーム付シリンダー正面のノブを押し下げます。



③ノブを押し下げたまま、カギを挿し、施錠します。



注)ノブを押し下げたまま(ボタンを押したまま)数秒解錠されずにいると、ブザーが鳴り出します。(30秒間で鳴り止みます。)



●ブザー解除方法

- ①防犯アラーム付シリンダーをカギで解錠します。
- ②タッチ付シリンダーを解錠します。

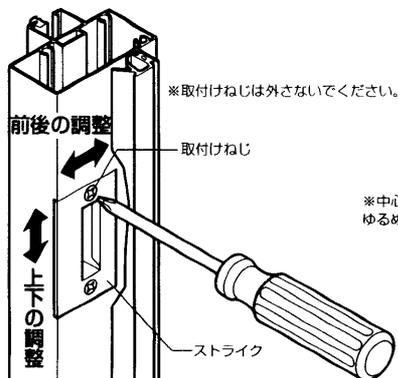
●ご使用上の注意

- ①ノブを押し下げずにカギを差し込むと、カギに傷がつく場合があります。
- ②シンナー、ベンジン等の溶剤で洗わないでください。
⇒変形や故障、発火の原因となります。
- ③改造や分解はしないでください。
⇒故障や発火の原因となります。

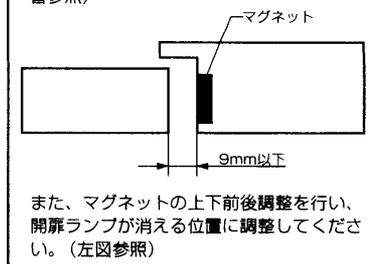
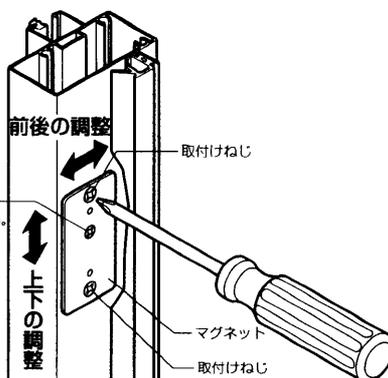
■施工後の確認

	原因	対策
1. サムターンツマミ及びカギの操作により扉を施錠／解錠を行なう事が出来る。	NO 扉の錠受け(ストライク)の取付けが正しくありません。	ストライクの位置を調整してください。(下図参照)
2. タッチキーシステム及びリモコン機能を使って扉を施錠／解錠を行なう事が出来る。	NO 扉が開いています。	扉を閉めてください。
	NO 扉の建て付けが正しくありません。	<玄関ドア> 扉とマグネットのチリを9mm以下に調整してください。(調整方法は枠の取付け説明書参照)

<ストライク位置調整図>



<マグネット位置調整図>



また、マグネットの上下前後調整を行い、開扉ランプが消える位置に調整してください。(左図参照)